日本語スタイルガイド
クイックリファレンス

資料は、『日本語スタイルガイド』から必要最小限の内容を抜粋したものです。具体例や説明については、『日本語スタイルガイド』を参照してください。

用語について

表記方法

次の優先順位で、表記方法を決めます。

1. 広く使用されている訳を使う
2. できるだけ日本語 (漢字・ひらがな) にする
3. カタカナにする
4. 英語にする

翻訳方法

次の優先順位で、翻訳を決めます。

1. 技術的に誤解を与える可能性が低い
2. 意味を理解しやすい
3. 呼び名として簡潔である
4. 既存の製品間で矛盾や不均衡がない
5. スタイルガイドに従っている

翻訳全般

文字サイズ、句読点、スペース

- 日本語の句点は全角の「。」を、読点は全角の「、」を使う。
- 日本語には全角文字 (2 バイト文字) を使う。
- 英数字、符号には半角文字 (1 バイト文字) を使う。
- 数字は、慣習的に使われている場合を除いて、算用数字 (1、2、3) を使う。
- 半角文字と全角文字の間には、半角文字 1 字分のスペースを入れる。
- 丸括弧 ( ) の外側には、全角文字がきても半角文字がきても間に半角文字 1 文字分のスペースを入れる。丸括弧 ( ) の内側には、全角文字がきても半角文字がきても間にスペースを入れない。丸括弧 ( ) 内には句点は付けない。複数の文がある場合は、各文の間にだけ句点を付ける。丸括弧が末尾にくる場合は、括弧の外に句点を付ける。

文字の表記

- 漢字は、常用漢字表 (付表を含む) に従う (参考: 文化庁の常用漢字表 - http://www.bunka.go.jp/kokugo/ の「内閣告示・内閣訓令」セクション)。
- 同音異義語・同訓異字の使い方は、『朝日新聞の用語の手引』を基準とする。
- 原則として名詞と動詞には漢字を使い、接続詞、連体詞、助動詞、補助動詞、助詞、連語、形式名詞、接頭語、接尾語はかな書きにする。
- カタカナ語

- 長音記号「ー」は、長音を含めて 4 文字以下になる単語には付けるが、5 文字以上になる単語には付けない。合成語の場合は、各要素に対してこの考え方を適用する。

  例: ユーザー、サーバー、コンパイラ、インストーラ、ユーザーインタフェース

  ただし、単語の末尾が er, ar, or, re, y, ew となるもののうち、日本語の末尾が拗音になるもの、および、日本語で定着しているものには、例外として付ける。

  例: コミュニティー、アーキテクチャー、ランデブー

- 中点は、基本的には使用しない。ただし、「の」などを補っても読みにくさを回避できない場合は使用してもよい。例: ライブラリ・リファレンスマニュアル

翻訳するかどうか

- リリース名、製品名、商標名、日本語版が存在しないドキュメントは、翻訳しない。参考: たとえば、Sun の場合は、以下で確認できる。
  - 製品・商標名かどうかの確認は、http://reliant.central.sun.com/Tmark/
  - ドキュメントの日本語版があるかどうかの確認は、http://docs.sun.com および SunDocs http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs
- 翻訳しないもの: プログラム例、コマンド名、引数名、関数名、変数名、ファイル名、ディレクトリ名、ライブラリ名、プログラミング言語の名称、パート番号 (Part 1、Part 2 などの表記)

文体

- 本文の文体、手順は「です・ます」調。
- 章タイトルは「体言止め」、節と項のタイトルは「である」調または「体言止め」で統一し、句点は付けない。
- 丸括弧は、できるだけ使わない。
- 表や図の中の表記は簡潔に。
- 英文と同じ態および時制を使う。
- 丁寧語を使うが、簡潔さを出すために尊敬語・謙譲語は多用しない。

記号の使用方法

- 鍵括弧「」: 文中に他の語句や文を引用するとき、本やマニュアルの章、節、および項のタイトルを引用するとき、画面上のメニュー名や、操作ボタン名、日本語メッセージを示すとき、特定の語句を強調したいときに使う。
- 二重鍵括弧『』: 本の題名を示すときに使う。
- 丸括弧 ( ): 文中で補足、注釈、言い換えをするときに使う。
- 波ダッシュ「〜」: 範囲を示すときや、文の一部を省略するときに使う (ただし、メッセージの翻訳では避ける)。
- コロン「:」: ドキュメントの場合、基本的には日本語の文章には使わない。文末にコロンが使われている英文を翻訳するときには、そのコロンの意味を翻訳する (ただし、メッセージの翻訳では英語のとおりに使う)。
- 単位は単位記号を使うが、ビット、バイト、外国通貨、時間、角度、概数、成句の単位は翻訳する。例: ビット、バイト、K バイト、M バイト、G バイト、250K バイト、100M バイト
- 感嘆符「!」、セミコロン「;」、疑問符「?」は、ドキュメント本文には使わない (メッセージの翻訳では、セミコロン以外は英語のとおりに使う)。
- 斜線「/」: できるだけ斜線の意味を翻訳する。

参考情報

用語集の作成と更新

内容を理解しやすくするためには、全体にわたって一貫性のある用語を使用することが大切です。そのためには用語集の作成と更新が重要です。

たとえば、Sun で翻訳に使用している用語は、SunGloss (https://g11nportal.sun.com/sungloss/index.jsp) から検索できます。

参考: SunGloss の使用方法は次のとおりです。

1. https://g11nportal.sun.com/sungloss/index.jsp にアクセスする。
2. (はじめて使用する場合) 「If you are a new user you can register here」の「here」リンクをクリックして、アカウントを作成する。
3. 作成されたアカウント情報でログインする。
4. 左上の「Search for Term」をクリックする。
5. 「Search for:」フィールドに検索する文字列を入力して、「Start to Search」ボタンをクリックする。

検索画面の「Product Lines 」というセクションには製品ごとの分類があります。General というカテゴリには、製品に依存しない用語があります。優先順位は、「各プロジェクト・製品名」→「General」としてください。

目的の用語の訳が、ほかの製品群に含まれている場合があります。そのため、SunGloss の検索画面では、次のような設定にすることをお勧めします。

- Source Language: English (en-US)
- Target Language: Japanese (ja-JP)
- Product Lines: 「Select All Product Lines」をオンにする
- Display: 「Term with Details」をオンにする

このほか、次のようなサイトが参考になります。

- HP: http://docs.hp.com/ja/index.html
- IBM: http://www-6.ibm.com/jp/manuals/nlsdic/nlsdic.html
- Microsoft: ftp://ftp.microsoft.com/developr/msdn/newup/Glossary/
- Sun : http://docs.sun.com
  http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs

翻訳メモリーの使用

翻訳メモリーとは、原文と翻訳文を関連付けてデータベース化し、既存の翻訳内容を効率的に再利用したり、内容の一貫性を持たせたりして、翻訳作業を支援するソフトウェアです。いったん翻訳したものを、英文の変更にあわせて更新したい場合にも、翻訳メモリーを使用すると効率的に作業できます。

オープンソースの翻訳メモリーには、次のようなものがあります。

- Open Language Tools (OLT):https://open-language-tools.dev.java.net/ からダウンロードできます。Sun 社内でも使用しています。
- OmegaT: http://sourceforge.net/projects/omegat/ からダウンロードできます。

翻訳メモリーでの翻訳

翻訳メモリーを使って翻訳する場合は、特に次の点に注意する必要があります。

- 英語と日本語は「1 対 1」の関係にする。難しい場合は、1 対「多」の関係にすることは可能であるが、「多」対 1 の関係にすると、対応が壊れて再利用できなくなる。
- 句点の有無は、英文のとおりにする。
- 表の中の文や箇条書きであっても、再利用の妨げになりそうな場合は「です・ます」調にする。

連絡先

日本語スタイルガイドについてのご意見やご質問は、次の宛先までお願いします。

サン・マイクロシステムズ、日本語 Language Lead:

斎藤　玲子 (さいとう　れいこ)

電子メール: reiko.saito@sun.com

ブログ: http://blogs.sun.com/reiko

電話番号: 03-5962-4912